

1. 科目名 (単位数)	少年と犯罪 (2単位)	3. 科目番号	GELA1353 GELA1333								
2. 授業担当教員	梶原 洋生										
4. 授業形態	講義を中心とするが、グループ討議やケース研究の演習などを併用する。	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	<p>日本は犯罪発生率の低い治安の良好な国として世界に知られているが、次代を担う少年によるいじめ、非行や犯罪の発生状況とその様態にはかなりの問題があり、福祉国家を標榜するわが国の将来にとって深刻な社会問題となっている。そこで、少年による犯罪・非行の現状と時代による変化の様相、少年非行に対する警察・裁判の取り組み、児童福祉・少年院・保護観察所などの諸機関における処遇システムなどについて理解を深め、更には犯罪、非行の発生機序について素質と環境の両面から解明を試みる。また、効果的な治療、処遇の方法、犯罪被害者の支援等についても考察する。</p> <p>合わせて、近年、少年非行は凶悪化していると言われるが、本当に少年事件は凶悪化しているのか科学的、統計的に検証するとともに、少年非行に対する刑罰と保護のあり方について考察を加える。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>少年非行の実情及び時代背景を反映した非行内容等の変化について理解し、説明することができるようになる。</li> <li>犯罪・非行の原因とその発生機序について、素質・環境の両面から理解し、説明することができるようになる。</li> <li>非行少年にかかる刑事司法機関、少年保護機関の役割・機能について理解し、説明することができるようになる。</li> <li>事例研究(ケーススタディ)に基づき、少年非行の原因や適切な処遇のあり方について理解し、発表することができるようになる。</li> <li>以上を通じて、将来、この種の専門機関(少年処遇機関)で働くことの意義を理解し、説明できるようになるとともに、就職のために必要な関連知識を修得することができる。</li> </ol>										
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業内でリアクションペーパーの提出を義務付け、理解習熟度の確認を行う。</li> <li>課題レポートの提出を義務付ける。テーマ:「少年事件における家庭裁判所の役割について」</li> </ol>										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】藤原正範『少年事件に取り組む一家裁判官の現場から』岩波新書。  【参考書】鮎川潤『新版 少年非行の社会学』世界思想社。  日本弁護士連合会『子どもの権利 ガイドブック』明石書店。  松嶋秀明『関係性のなかの非行少年』新曜社。</p>										
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>レポートや論文の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。</li> <li>分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。</li> </ol> <p>○評定の方法  [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>2 期末試験又は小テスト</td> <td>総合点の40%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4 日常の学習状況</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	総合点の20%	2 期末試験又は小テスト	総合点の40%	3 課題レポート	総合点の20%	4 日常の学習状況	総合点の20%
1 授業への積極的参加	総合点の20%										
2 期末試験又は小テスト	総合点の40%										
3 課題レポート	総合点の20%										
4 日常の学習状況	総合点の20%										
12. 受講生へのメッセージ	社会事象である非行・犯罪問題について考える習慣を身に付けたい。										
13. オフィスアワー	授業の前後										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	はじめに	事前学習	教科書の第1章について200字以内でまとめる。								
		事後学習	配布資料について200字以内でまとめる。								
第2回	子ども・児童・少年の権利という考え方	事前学習	第1章内の事例について200字以内でまとめる。								
		事後学習	「成長権」について参考文献を図書館で調べ、200字以内でまとめる。								
第3回	社会と法の視点から① —出生の権利論—	事前学習	「出生」の定義について調べる。								
		事後学習	「出生」について200字以内でまとめる。								
第4回	社会と法の視点から② —発達の権利論—	事前学習	「発達」の定義について図書館で参考文献を探してみる。								
		事後学習	「発達」について200字以内でまとめる。								
第5回	社会と法の視点から③ —子どもの権利論—	事前学習	「子ども」のルールについて『権利』の視点で取り上げた文献を探してみる。								
		事後学習	「子どもと条例」について200字以内でまとめる。								
第6回	少年と司法 —権利に関する世界の動き—	事前学習	「権利条約」について調べる。								
		事後学習	「権利条約」について200字以内でまとめる。								
第7回	少年司法における保護と処遇	事前学習	「健全育成」について200字以内でまとめる。								
		事後学習	「健全育成」の参考文献について200字以内でまとめる。								
第8回	家庭裁判所の現場と少年の司法福祉	事前学習	「家庭裁判所」について200字以内でまとめる。								
		事後学習	「司法福祉」について200字以内でまとめる。								
第9回	刑事司法と少年司法	事前学習	第2章について200字以内でまとめる。								
		事後学習	第2章について、参考文献を踏まえて200字以内でまとめる。								
第10回	少年事件のむずかしさ	事前学習	第3章について200字以内でまとめる。								
		事後学習	第3章内の事例を中心に200字以内でまとめる。								
第11回	修復的司法① —年齢という課題—	事前学習	第4章について200字以内でまとめる。								
		事後学習	第4章内の事例を中心に200字以内でまとめなおす。								
第12回	修復的司法② —少年事件のむずかしさ—	事前学習	第5章内の裁判例を熟読する。								
		事後学習	第5章について200字以内でまとめる。								

第13回	「被害者」から少年の非行・犯罪を考える	事前学習	第6章内の事例を整理してまとめる。
		事後学習	第6章について200字以内でまとめる。
第14回	非行の科学とソーシャルワーク	事前学習	第7章について200字以内でまとめる。
		事後学習	配布資料の内容について200字以内でまとめる。
第15回	まとめ	事前学習	教科書全般（第1章－第7章）の熟読。
		事後学習	参考資料全般を再度読み直して200字以上でノートにまとめる。
期末試験			